The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪市方言話者のスタイル切換え
Author(s)	細谷, 書子
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2004, 6, p. 42-63
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23235
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大社会言語学研究ノート』第6号（2004年3月）42-63

大阪市方言話者のスタイル切換え

細谷　書子

1. 調査の概要

1.1. インフォーマント情報

〔表1〕

	年齢	職業	居住歴
SA	68	不明	0-68:大阪市(北区、淀川区)
SC	81	元会社員	0-19:大阪市中央区、19-20:東京都、21-26:中国、27-81:大阪市東淀川区
YA	24	学生	0:神戸市垂水区、0-24:大阪市北区
YC	24	フリーター	0-2:兵庫県三田市、2-24:大阪市東淀川区
YF1	27	学生	0-18:青森県、18-22:東京都、22-27:大阪府池田市
YF2	23	学生	0-18:新潟県、18-22:富山県、22-23:大阪府池田市

1.2. 談話情報

〔表2〕*1

	話者	話者間の関係	収録時間	談話の展開
老－老	SA－SC	サークル仲間で高校の同窓生	40分	同量の発話
老－調	SA－YF1	初対面	40分以上*2	SAがYF1に語る
若－若	YA－YC	高校時代からの仲のよい友人	40分	YAはYCの聞き役、YCの発話量が6割～7割
若－調	YA－YF2	初対面	40分	互いに質問、発話量は同程度

*1 談話の収録は高木千恵氏によるものである。
*2 他のものとのデータ量をそろえるために最初から40分を分析対象とした。

2. 結果および考察

2.1. 自称詞

2.1.1. 結果

(1) SAは複数形として接辞「ラ」を用いているが1例だけ≪対調≫で「タチ」を用いている。例は〔1〕の通りである。

(2) SAが≪対調≫で用いた方言形「ウチラ、ウチ」は以下の場面である。これが「家」という意味で使用されたものか、「私」という意味で使われたのかは不明である。例は〔2〕の通りである。

〔表3〕*1

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
複数形*1				
ワタシタチ	-	1	-	-
ワレワレ	-	2	-	-
ワタシラ	15	11	-	-
ウチラ	2	1	-	-
単数形*2				
ワタシ	16	31	-	-
ボク	-	-	-	7
オレ	1	1	24	-
ウチ	2	1	-	-

*1 全ての表に関して、引用と思われる箇所のものは省いた。
*2 形式上で分別したものであり、複数形の中には「複数の意味を表すもの」・「単数の意味を表すもの」・「どちらともわからないもの」が含まれている。
*3 SAが《対調》場面で「ワタイ」を用いた箇所が2箇所あったが、これはなにかの表を見ながら単語を読み上げている話の中でのものであるので、表中には含めなかった。また、それを訳したと思われる、同じ箇所に出現した「ワタシ」も同様の理由で含めなかった。

〔1〕

828SA:　あの　せんせ[先生]で　大体

829YF1:　あー

830SA:　出てるはずですわ。せやからあれ、いー、みてくれはって

831YF1:　はい

832SA:　えー、ちょっと勉強しといてください

833YF1:　{笑いながら}はい

→834SA:　もー、これ<u>私たち</u>やゆーことやなしに　あれ、あれー、引き出してくれはったらいけるわ

835YF1:　あー　〔老－調〕

〔2〕

954SA:　おたくらでも私のー、親がゆーね　あのー、ごわす言葉なんてあんまりー、ご存じないですやろ

955YF1:　はい

956SA:　ございます、はやっぱりゆーでしょ？

957YF1:　はい

→958SA:　昔は<u>うちら</u>親父の時分ねー、そうでごわす、とかね↑

959YF1:　おー

960SA:　ごわす言葉つことった[使っていた]

961YF1:　あーそうなんですか

962SA:　そうでございます、ゆーて今の人やったらゆーけどね

963YF1: はい

→964SA: うちの親父ーの時代やったらそうでごわす、とかねー

965YF1: ふーん

966SA: そうでやす、とか

967YF1: あー 〔老ー調〕

(3) YA は≪対若≫で「オレ」を、≪対調≫で「ボク」を用いている。

2.1.2. 解釈

(a) SA は≪対調≫で≪対老≫ではもちいなかった「ワタシタチ、ワレワレ」を 1 例ずつ用いている他は、あまり両場面での違いは見られない。これに関しては 2 つの解釈が考えられる。

(a-1) ≪対調≫をフォーマル場面としてとらえたのはもちろんだが、SC が高校の先輩にあたることから≪対老≫もフォーマル場面としてとらえた可能性がある。「オレ、オレラ」の出現が少ないのはもちろん、「ウチ、ウチラ」といった方言形式も少ないのは目上の SC、初対面の YF1 に対してもっとも適したものとして「ワタシ」を選んだからかもしれない。

(a-2) (a-1)の考え方とは別にこの項目に関して SA 自体に切換えがない可能性も考えられる。

(b) (3)より YA は方言形式ではない「ボク」と「オレ」を場面のフォーマル、カジュアルを軸にカテゴリカルに切換えている。また、同級生である YC に対する≪対若≫でも方言形式の出現が見られないことから、方言形式である「ワシ」「ワタイ」「ワイ」「ウチ」など自体を使用しないと考えられる。

2.2 対称詞

2.2.1. 結果

〔表 4〕

	老 (SA)		若 (YA)	
	対老	対調	対若	対調
オタクラ	-	3	-	-
オタク	-	1	-	-
名字+サン	1	-	-	-
名字のみ	-	-	5	-

(1) SA は YF1 には「オタク」、SC には「名字+サン」を使用している。

(2) YA は≪対若≫においては「名字のみ」を、≪対調≫において対称詞を使用していない。

2.2.2.　解釈

(a)　SCはSAに対して「アンタ」「名字＋サン」を使用しているが、それに対してSAは「名字＋サン」の使用しか見られない。切換えの有無はわからないが、2.1.2.(b)で指摘したようにSCに対して敬意があるために他の形式の使用がなかったと考えるのが妥当だと思われる。また、YF1に対してはYF1の名前を知る前も知った後も「オタク」と呼んでいる。これがYF1が年下であるためか、初対面であるためか、大阪市方言話者でないためかはわからない。

(b)　YAは、相手を呼ぶこと、つまり対称詞を使用することを意図的に避けていたと思われる。≪対若≫では「名字のみ」という形式があらわれており、カジュアル場面での対称詞の「使用」とフォーマル場面での「不使用」の切換えが見られる。ちなみに≪対調≫において、YF2もYAに対称詞を使用することはなかった。

2.3.　原因・理由の接続詞・接続助詞

2.3.1.　結果

〔表5 接続詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ダカラ	-	1	7*1	2
（ソ・セ）ヤカラ	6	26	-	-

*1　うち2例は「ダカ」

〔表6 接続助詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
カラ*1	21	33	10	10
サカイ	1	1	-	-

*1　言いさし表現を含む

(1)　SAは≪対老≫≪対調≫両場面において接続詞「ヤカラ」を主に用いる。≪対調≫で1例だけ用いられた「ダカラ」の例は以下の通りである。

〔5〕

254SA:　初代からね、はいってますねん。そやからーまあ、い、そんなことはもうNI≪人名≫さんゆい[言い]なゆうてるけどね↑

255YF1:　ええ

→256SA:　だからそんなことはーふせて。もう　この会は

257YF1:　ああ、そーなんですか？{笑い}

258SA:　ふん　それはふせとこーゆうことになってね　〔老－調〕

(2) SA は SC、YF1 に対して接続助詞「サカイ」を 1 例ずつ用いている。以下に例を記す。

〔3〕

641SC: たまに総会でてきてその名簿ぐらい買いなはれ

642SA: {笑い} くれまっせー。九千円か

643SC: あー

644SA: 調子悪いからいっこもけえへん

645SC: えー?

→646SA: いかれへん、ちょーし[調子]悪いさかいあんまり(SC:{笑}) ビールようけのめんならいけまんねんけどビールのまんようなってからいかれへん 〔老ー老〕

〔4〕

438SA: あの人もなかなか活躍しとるからね

439YF1: そうですねー

440SA: これが安かったら出てけーへんやろ?

441YF1: {笑い}

→442SA: こんなんいらんけど{笑い}、これはいったんのとちゃうか んー、これやさかいなあ。せんせー[先生]、勘定高いから

443YF1: ああ{笑い} 〔老ー調〕

(3) YA は接続詞では共通語形式「ダカラ」のみの使用が見られる。

(4) YA は接続助詞では「カラ」のみを使用している。

2.3.2. 解釈

(a) SA が≪対老≫で「ヤカラ」を≪対調≫ほど使用しなかった理由としては、SC 主導で話が進んだため 2 文以上の発話が少なかった。そのため、接続詞自体の使用が少なかったことが考えられる。その点、SA 主導で会話が進んだ≪対調≫では比較的「ヤカラ」の使用が多く見られたのかもしれない。SA は≪対老≫で「ダカラ」をまったく使用せず、≪対調≫で 1 例だけその出現が認められるが、全体的な出現回数から考えて、切換えがあるとは思われない。

(b) YA は≪対若≫≪対調≫両場面で接続詞「ダカラ」のみ使用しており、切換えは見られない。

(c) 上記(a)(b)から考えて、SA・YA とも接続詞は切換えの対象とはならない。また、SA・YA を比較して考えると、方言形式「(ソ・セ) ヤカラ」から共通語形式「ダカラ」への使用の移行が見られる。

(d) 接続助詞においても SA・YA ともに切換えは見られないことから接続助詞も切換えの対象ではないと考えられる。

(e) 接続助詞において方言形「サカイ」の使用は YA ではまったくみられず、SA でも両場面で 1 例ずつしか見られないことから方言形式の使用自体が減少し「カラ」に移

行している傾向にあるといえる。

(f)　接続助詞において共通語形式である「ノデ（ンデ）」の使用が全場面で見られないことから共通語形式は「カラ」で統一されており、また、上記 (e) で述べたように「ヤカラ」という方言形式の使用もみられなくなってきていることから「カラ」のみが使用されるという形式の一本化が進む可能性が考えられる。

2.4.　逆接の接続詞・接続助詞

2.4.1.　結果

〔表 7 接続詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
デモ	-	-	8	6
ケド	-	-	3	4
（ソ・セ）ヤケド	4	9	-	-

〔表 8 接続助詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ケレドモ	1	-	-	-
ケド*1	16	56	17	52

*1 言いさし表現を含む

(1)　SA は接続詞において、≪対老≫≪対調≫ともに方言形式のみ使用し、共通語形式の使用は見られない。接続助詞で 1 例用いられた共通語形式「ケレドモ」の例は以下の通りである。

〔7〕

712SA: ウォーキング、ウォーキングゆうのありましたやろ　ウォーキングテスト

713SC: うん　ほーは五年間行きました[お菓子を食べながら]

→714SA: あれいっしょけんめ[一生懸命]昔走りましたなあ　ウォーキングやけれども

715SC: うん、あのね　あえ[あれ]はあのかなだ≪カナダ≫の人かな　おーえっちえす[OHS]で色分けにして赤青黄で

716SA: やりましたー　〔老ー老〕

(2)　YA は≪対若≫でも≪対調≫でも接続詞において共通語形式「デモ」・「ケド」、接続助詞において共通語形式「ケド」しか用いていない。

2.4.2.　解釈

(a)　(1)で「ケレドモ」が出現した可能性として、自分の発話に重みを持たせるという目

的があると考えられる。この前後でSCがこの談話の中断を何度も求めており、それに伴い、全体的にSAがSCに対して中断から気をそらせようと積極的に話題をかえる、など会話の主導権を握ろうとする様子が見られる。そのため、それまで相づちが多かったSAの会話も変化してきており、この「ケレドモ」もその表れかもしれない。つまり、ドメイン内の切換えである、と言えるだろう。ただ、この例が1例のみであるという点から考えると、あくまでもその可能性がある、としか言えない。

(b) (1)より、接続詞においてSAには切換えが見られないので、この項目は切換えの対象ではない。

(c) (2)よりYAには切換えが見られないので、この項目は切換えの対象ではない。

(d) 接続詞においてSA・YAを比較すると、方言形式「(セ・ソ) ヤケド」の使用から共通語形式「デモ」・「ケド」の使用への移行が見られる。ただし、YAが用いている「ケド」が共通語の「ケレドモ」の縮約形なのか、方言形式「(セ・ソ) ヤケド」の縮約形なのかは定かではないが、その区別をあいまいにすること自体がYAの意図的なものである可能性もある。

(e) 接続助詞においてSA・YAとも≪対調≫の方が、≪対若≫・≪対老≫よりも多用する、という場面による違いはあるが両者とも≪対調≫の方が発話量が多いからであると思われ、「使用」・「不使用」の切換えはないといえる。また、使用形式がほぼ「ケド」のみであることから形式による切換えは存在せず、「ケド」のみ使用するという、形式の一本化が進んでいると言える。

2.5. 確認要求

2.5.1. 結果

〔表9〕

	老 (SA)		若 (YA)	
	対老	対調	対若	対調
デショ	4	31	-	2
ヨネ	-	-	-	39
ヤロ	32*1	5	8	-
チャウ	1	-	3	-
ヤン (カ)	5	1	18	-
ガナ	14	-	-	-

*1 うち、「ッシャロ」を18例、「ッサロ」を1例含む。

(1) SAは≪対調≫で共通語形式「デショ」を、≪対老≫で方言形式「ヤロ」「ガナ」を多用している。ただし、SAが1例だけ使用した「チャウ」は聞き手目当て性のない発話である可能性がある。

〔8〕

282SA: しゃべらないかーんから。それのことゆうときにこれちょっと　ださなー話になりまへんやろ？せやからこれちょっとだしたりね、もって

283SC: ほーん

284SA: 話して。あーん、このはれあの

285SC: ふーん

→286SA: 持って行ってしもたんちゃう？せんせ[先生]これもって帰ってくれゆうて返してもらわなあかんねん。いや名刺ね、これ必要なときやっぱありまっせ

287SC: ふーん　〔老－老〕

(2) YA は≪対若≫で方言形式「ヤロ」・「チャウ」・「ヤン（カ）」を用い、≪対調≫で共通語形式「デショ」・「ヨネ」を用いる。しかし、方言形式「ガナ」の使用はみられない。

2.5.2. 解釈

(a) SA は「ヤロ」「ガナ」以外の方言形式「チャウ」・「ヤン（カ）」を比較しても≪対老≫の方が≪対調≫より多用しているため、≪対老≫で方言形式を多用、≪対調≫で共通語形式を多用する、という連続的な切換えを行っているといえる。

(b) (2)より、YA は≪対若≫で方言形式「ヤロ」・「チャウ」・「ヤン（カ）」を、≪対調≫で共通語形式「デショ」・「ヨネ」を用いるというカテゴリカルな切換えを行っている。

2.6. 動詞否定形式

2.6.1. 結果

(1) SA では YA でみられなかった形式、「マヘン」が出現した。

〔9〕

267SC: 様子かわってくるわ　うん　ふーん　あーさよか　{笑い}だからーあのへん中学校高学年　だか[だから]中学に入ってずーっと　あの　ドンドロ大師、ドンドロ大師ゆうのしっ、　聞いたことおまっか、さんこう神社

→268SA: 私あのーたまつっき[玉造]稲荷しか知りまへんわ(SC:{笑い})玉造稲荷

269SC: んーなるほど　〔老－老〕

(2) SA は共通語形式「ナイ」を≪対調≫でのみ使用している。同じく、共通語形式「マセン」は≪対老≫より、≪対調≫で多用している。

(3) YA は≪対若≫で「ヘン・ン」、≪対調≫で「マセン・ナイ」を用いている。≪対調≫で 1 例だけ「ン」使用が見られたが、これは、自己訂正であると思われたので表中には含めなかった。例は以下の通りである。

〔10〕

915YF: あっ えっ それは 例えばー 体育の 授業で 柔道と 剣道 あるけど、どっちを やりたい かっとぅいう

916YA: なんか そういうのではなくて (YF:はい)。なんか クラス 単位で もう 決められてたみたいで (YF:えっ)、勝手に。(YF:えっー) あー たぶん そうやったと 思いますよ。

→917YA:なんか 自分の 希望ー 通らん、通らないというか そういう 感じで。

918YA:はい。 〔若ー調〕

〔表 10〕 *1

	老 (SA)		若 (YA)	
	対老	対調	対若	対調
マセン	2	6	-	2
マヘン	4	1	-	-
ナイ	-	5	-	5
ヘン	12	11	13	-
ン	6	25	3	-

*1 記事からの引用部分を読んだと思われる 4 例を除く

〔表 11 テ形接続〕

	老 (SA)		若 (YA)	
	対老	対調	対若	対調
ナイ	1	4	1	1
ヘン	1	1	4	-

2.6.2. 解釈

(a) (1)より、丁寧体の方言形式である「マヘン」の使用が、SA のみにみられ、YA にはみられないことから、「マヘン」という形式を YA が方言形式と認識したうえで切換えの対象としているか、もしくは「マヘン」という形式自体が若年層に使われなくなってきている可能性がある。

(b) SA は≪対調≫で、≪対老≫より「マセン・ナイ」を、≪対老≫で≪対調≫より「ヘン・ン」を多用しているが、全体的な出現回数から考えて連続的な切換えを行っているとはいえない。切換えはないと思われる。

(c) SA は SC に対しても YF1 に対してもほぼ全場面を通して敬語で話しているにもかかわらず、共通語形式の丁寧形式、「マセン」の出現が少ない。かわりに使用したと考えられる形式は「ハル形式＋ヘン」「ナイ＋丁寧形式」であるが、「ハル形式＋ヘン」は≪対老≫≪対調≫ともに 1 例ずつ、「ナイ＋丁寧形式」は 0 例であることから、否定形に丁寧形式を使用すること自体がないと考えられる。

(d)　YA に 1 例だけ見られた「ン」の使用は「ン」から直後に「ナイ」に言い直していることから、≪対調≫で共通語形式「マセン・ナイ」、≪対若≫で「ヘン・ン」を用いており、カテゴリカルな切換えを行っている。

2.7.　アスペクト

2.7.1.　結果

〔表 12〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
テイル	-	-	-	1
テル	25	46	25	26
トル	5	9	11	3

(1)　SA は≪対老≫、≪対調≫で「テル」・「トル」を用いており、どちらの形式も≪対老≫より≪対調≫で多用されている。

(2)　SA・YA とも共通語形式「テオル」・「テアル」、方言形式「トォル」の使用はなかった。

(3)　YA は共通語形式「テイル」を≪対調≫のみ使用し、方言形式「トル」の使用は≪対調≫より、≪対若≫で多用している。

2.7.2.　解釈

(a)　(1)より SA が切換えを行っているとは言えない。

(b)　(3)より、YA は共通語形式「テイル・テル」を≪対調≫で、方言形式「トル」を≪対若≫で主に用いていることになり、共通語形式と方言形式を連続的に切換えているといえる。

2.8　推量形式

2.8.1　結果

〔表 13〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
デショ（ウ）	-	1	-	1
ダロ	-	-	1	-
ヤロ	-	1	13	-

(1)　SA では推量形式の出現自体≪対調≫で 2 例とほとんど見られなかった。

〔11〕

237YF1: ああ

238SA: 送ったげます、うん

239YF1: ああ、だいぶ古いんーですかね

→240SA: あ、ゆうたってそんな古くないでしょう

241YF1: あ、そうですか

242SA: ええ ふるない[古くない]ですわ 〔老ー調〕

(2) YA は共通語形式丁寧体「デショ」を≪対調≫で、方言形式普通体「ヤロ」を≪対若≫で使用する。≪対若≫で 1 例あらわれた「ダロ」は以下の例である。

〔12〕

1486YC: なんか ゆってて、ん、あと なんか "親戚が なんか 向こうの そうって 向こう側の 近くに住んでるんです"。

1487YA:おおー。

1488YC:一応 "結構 きた こと あります"とか いってさ、

1489YA:おー。

1490YC:結構 つっ 聞かれたからな、

1491YA:おおー。

→1492YA:聞いてくるだろな。 〔若ー若〕

2.8.2. 解釈

(a) SA が推量形式自体を使用しなかった理由として、≪対老≫では発話量はほぼ同量ではあったが、内容として学生時代の話が主であった。過去の話がほとんどであり、事実確認をするといったかたちで談話が進んだため、推量形式が出現しなかったという可能性が考えられる。

(b) YA に関して、≪対調≫で出現回数が少ないため切換えに関して言及することは難しいかもしれない。しかし、表の結果からみて、YA は≪対調≫で丁寧体、≪対若≫で普通体を用いているので当然の結果かもしれないが、≪対調≫で「ヤロ」等方言形式が全く現れないことは「丁寧体＋ヤロ」という形式が YA の中に存在していない、もしくは方言形式と認めて切換えていることが考えられる。

2.9 終助詞・間投助詞

2.9.1. 結果

(1) SA において、「ヤ」の使用がみられない。

(2) SA は≪対老≫でも≪対調≫でも「ネ」・「ワ」を主に使用している。共通語形式「ヨ・ネ・カナ・ナ・ワ」は≪対調≫で多く、方言形式「ネン・テン・セ・デ」は≪対老≫で多く使用されている。

(3)　YA は≪対若≫で「ナ」を、≪対調≫で「ヨ」・「ネ」を主に使用している。また、≪対若≫でのみ「ヤ」・「デ」・「ネン」という方言形式を使用している。

〔表 14 終助詞〕*1

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ヨ（ー・ナ・ネ）	2(2)	4(4)	6(-)	65(65)
ネ（ー）	52(4)	151(8)	-	28(21)
カナ	5(0)	4(1)	13(-)	-
ナ（ー）	19(0)	18(3)	86(-)	-
ワ（ー・ナ・ネ）	44(34)	94(85)	15(-)	1(1)
ヤ	-	-	3(-)	-
ネン・テン	18(1)	8(8)	1(-)	-
セ	12(12)*2	2(2)	-	-
デ	9(0)	3(1)	3(-)	-

*1 ( )内は、総計のうち丁寧体に付属したものがしめる数。
*2 セは「マッセ」「デッセ」のように丁寧形式にのみ従属するので他のものとはやや性質が異なる。

〔表 15 間投助詞〕

	老（SA）		若（YA）	
	対老	対調	対若	対調
ヨ（ー）	1		-	-
ネ（ー）	29	148	1	6
ナ（ー）	1	7	26	-

2.9.2.　解釈

(a)　「ネ」は丁寧形式に後接する例が少ない。このことから、「ネ」を方言形式に後接させることで共通語形式、もしくは丁寧形式になると考えている可能性があると思われる。

(b)　「テン」・「セ」は YA で使用があまりみられないことから、これらの使用が減ってきているのかもしれない。

(c)　(2)・(3)より、SA・YA ともに≪対調≫で共通語形式を、≪対老≫・≪対若≫で方言形式を使用するという連続的な切換えを行っているといえる。

(d)　「ヤ」は YA にしか使用されなかった。以下の例のように、「ヤ」を使用することで依頼よりやや強めで、命令のような響きもあるため、SA は先輩である SC との≪対老≫、初対面である YF1 との≪対調≫場面で使用しづらかったと思われる。

〔13〕

203YC：いよ　伊予三島市やで。

204YA：伊予三島市↓。

205YC：うん

→206YA：おー。まだ　手紙　書いてや。　〔若－若〕

3. まとめ

まとめると、切換えについて以下のようになる。

	老（SA）	若（YA）
自称詞	なし	カテゴリカル （「ボク」／「オレ」）
対称詞	なし	カテゴリカル （「使用」／「不使用」）
原因理由（接続詞）	なし	なし （「ダカラ」への一本化）
（接続助詞）	なし	なし （「カラ」への一本化）
逆接（接続詞）	なし	なし
（接続助詞）	なし	なし （「ケド」への一本化）
確認要求	連続的 （「方言」／「共通語」）	カテゴリカル （「方言」／「共通語」）
動詞否定形式	なし	カテゴリカル （「方言」／「共通語」）
アスペクト形式	なし	連続的 （「方言」／「共通語」）
推量形式	なし	なし
終助詞・間投助詞	連続的 （「方言」／「共通語」）	連続的 （「方言」／「共通語」）

(a) YA は逆接の接続助詞、推量形式で切換えなしと認められたものの、それ以外の項目では形式の一本化、もしくは「方言形式」／「共通語形式」でカテゴリカルか連続的な切換えを行っている。

(b) SA にのみ使用がみられ、YA には使用がみられないという一部の方言形式の消滅、使用する形式が 1 形式のみに限られるという、「形式の一本化」という現象が見られる。

以上から、YA に関して、共通語話者に対しては「共通語形式」を、方言話者に対しては「方言形式、一部共通語形式」を用いているといえる。また、切換えに預からないとされた項目は共通語形式のうち 1 形式の使用しかみられない、「形式の一本化」が進んでいることがわかる。

SA にはほとんどの項目で切換えがみられなかったがそれに関して 2.1.2 の解釈もふまえて考えると以下のようなことが言える。

(c)　SA は先輩である SC との談話≪対老≫と初対面である YF1 との談話≪対調≫どちらの場面もフォーマル場面として捉えている可能性もあるが、仮にそうだとしても一部に切換えがみられること、また他地域と比較することから以下のように考えられる。

(c-1)　SA は方言話者である SC に対して方言形式のみ使用している。

(c-2)　SA は共通語話者である YF2 に対して共通語形式と方言形式のどちらも使用している。

(c-3)　他地域では「SA は親疎関係によって「方言」／「共通語」の切換えを行う（津軽）」、「SA は相手の年齢が自分より上か下かによって切換えを行う（東京下町）」、「SA は場面によって方言内で連続的な切換えを行う（高知県幡多）」、「SA はソトあるいは疎のものに対して切換えを行う（鹿児島）」、「SA はフォーマル場面かカジュアル場面かによって切換えを行う（京都市）」という結果が出ている。

(c-4)　以上から、他地域では、**「相手が共通語話者である→共通語形式を用いるよう注意を払う。／相手が方言話者である→方言形式でも共通語形式でもどちらでもかまわない」**、ととらえているのに対し、大阪市方言話者は**「相手が方言話者である→方言形式を用いるよう注意を払う。／相手が共通語話者である→方言形式でも共通語形式でもどちらでもかまわない」**、ととらえている可能性が考えられる。つまり、他地域の話者は共通語話者を意識した切換えを行うのに対し、大阪市方言話者は方言話者を意識した切換えを行うと考えられる。

以上のような可能性を示せたことは、大阪市方言話者の特徴として今後重要になってくるのではないだろうか、と考えている。

4.　展望

今回は形式に着目して分析を進めた。その中で、SA のみ使用がみられる形式が多数みられたこと、SA・YA とも 1 つの形式のみの使用がみられたものがあったことから「方言形式の消滅」、「形式の一本化」という現象についても示せた。

また、SA が他地域の SA と異なり、共通語話者ではなく、方言話者を意識して切換えを行っている可能性があることを示せたことは、大阪方言話者の特徴として今後考慮する必要があるのではないだろうか、と考えている。

【注1 SCの談話データ】

SC-YF3の談話の収録もなされたが、YF3が女性であるという点で、今までのSSのデータと異なる。しかし、SCのデータも「3.まとめ」で記述したことを裏付けるための一資料になると思われる。

〔表1 インフォーマント情報〕

	年齢	職業	居住歴
SC*1	81	元会社員	0-19:大阪市中央区、19-20:東京都、21-26:中国、27-81:大阪市東淀川区
YF3	22	学生	0-18:広島県、18-22:大阪府

*1 SCは男性である。

〔表2 談話情報〕*1

	話者	話者間の関係	収録時間	談話の展開
老ー調	SC−YF3	初対面	40分以上*2	SCがYF3に語る

*1 談話の収録は高木千恵氏によるものである。
*2 他のものとのデータ量をそろえるために最初から40分を分析対象とした。

〔表3 SCの自称詞〕

	対老	対調
複数形*1		
ワレワレ	-	1
ワタシラ	-	1
ボクラ	15	10
ワシラ	2	1
単数形		
ワタシ	-	3
ボク	6	3
ワシ	-	1

*1 形式上で分別したものであり、複数形の中には「複数の意味を表すもの」・「単数の意味を表すもの」・「どちらともわからないもの」が含まれている。

〔表4 SCの対称詞〕

	対老	対調
アナタ	-	1
アンタ	21	12

〔表5 SCの原因・理由の接続詞〕

	対老	対調
ダカラ	7	26
（ソ・セ）ヤカラ	-	3

〔表6 SCの原因・理由の接続助詞〕

	対老	対調
カラ*1	20	67

*1 言いさし表現を含む

〔表7 SCの逆接の接続詞〕

	対老	対調
トコロガ	-	1
ダケド	1	3
デモ	3	2
（セ）ヤケド	-	1

〔表8 SCの逆接の接続助詞〕*1

	対老	対調
ケド	10	38
ガ	1	-

*1 言いさし表現を含む

〔表9 SCの確認要求〕

	対老	対調
デショ	8	22
ヨネ	-	1
ヤロ	5	6
ヤン（カ・ナ）	3	-
シャロ	1	-
ガナ	2	-

〔表 10 SC の動詞否定形式〕

	対老	対調
マセン	-	1
マヘン	5	-
ナイ	-	9
ヘン	19	16
ン	16	20

〔表 11 SC のテ形接続動詞否定形式〕

	対老	対調
ナイ	1	3
ヘン	5	2

〔表 12 SC のアスペクト〕

	対老	対調
テル	29	50
トル	18	13

〔表 13 SC の推量形式〕

	対老	対調
チャウ	5	2

〔表 14 SC の終助詞〕*1

	対老	対調
ヨ（一・ナ・ネ）	1	9(2)
ネ（一）	20	99
カ	19	2
カナ	6	1
ノ	-	1
モン	9	-
ナ（一）	44	48(2)
ワ（一・ナ・ネ）	24(1)	37(7)
ネン・テン	12	14(1)
デ	12	5(1)

*1 ( )内は、総計のうち丁寧体に付属したものがしめる数。

〔表15 SCの間投助詞〕

	対老	対調
ネ（一）	18	76
ナ（一）	5	6

【参考文献】

阿部貴人・坂口直樹（2002）「津軽方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート第4号特集スタイル切換え<1>』12-27

高木千惠（2002）「高知県幡多方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート第4号特集スタイル切換え<1>』55-67

辻加代子（2003）「京都市方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート第5号特集スタイル切換え<2>』2-22

舩木礼子（2003）「鹿児島方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート第5号特集スタイル切換え<2>』42-58

牧村史陽（1979）『大阪ことば辞典』講談社

益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法ー改訂版ー』くろしお出版

松丸真大・辻加代子（2002）「東京下町方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート第4号特集スタイル切換え<1>』33-49

ほそたに　ふみこ（大阪大学大学院生）
s-fumiko@d5.dion.ne.jp

〔老－老〕

収録日時：2001年6月20日
収録場所：大学構内（大阪府豊中市）
話題：幼年時代→学生時代→恩師・友人→退職前の仕事→恩師・友人→インタビュー→戦中→生年月日

033SC:あー、あんた、どこでしてん

034SA:天満

035SC:天満

036SA:北区

037SC:はー、ほな電車で？

038SA:電車でね、{笑い}電車乗るゆうてもね

039SC:うーん

040SA:あのー、天満橋

041SC:あー

042SA:歩いて

043SC:な、歩いたら結構あんな

044SA:うん。それ歩かされたんですわ

045SC:天満から歩いたらー、今でも20分ぐらいかかる、かかりまっしゃろ？

046SA:うん。それ、そうゆうことですね

047SC:うーん

048SA:それ歩いてね

049SC:僕は　大体は　T[高校名]が　あの　川堀やったからね　上、上本。　家が　空堀通り3丁目。ほでー、あのーひろこうじゆうたら上本町2丁目やん

050SA:近いですね

051SC:うん、近い近い

052SA:私らそやからー、天満から

053SC:うん

054SA:歩かされて

055SC:うん

056SA:ほいであれ上二[上本町二丁目]ずーと行ってで、えねーちけー[NHK]通って、八連隊の前通って

057SC:あっ、そですか

058SA:ね、ほで行って。で、前でこー、最敬礼さされたんですわ

059SC:あー、なるほどなるほど

060SA:え、yしね、で、そこでー、あー、はいでー、拝んで

061SC:ふん

062SA:ほいでーまあ　教育受けて

063SC:うちはねえ　小さい商売やっとったからねー。あのー、最初T[高校名]行けてん

064SA:T[高校名]受けはったん

065SC:T[高校名]、うん。あのー、なんでや　知らんけども　しょーがこ[小学校]のせんせ[先生]が　あのー　うちぃきよってね。ほでー　あんたとこやったらどこでもいけまっせー、とゆうてくれて。ほでーT[高校名]、ほんならあの当時　みなね

066SA:うん

067SC:行くから

068SA:商業用校でよったらT[高校名]が一番上でしたからね

069SC:うん。T[高校名]かー、中学やったらK[高校名]とかな？

070SA:うん

071SC:でもT[高校名]行ったらな、親父曰くや。　電車賃いるやんかい、と[SA:お茶を飲む]。T[高校名]やったほうが歩いて行けるやない　。{笑いながら}商売人やな

072SA:ふん

073SC:ほんでT[高校名]の時に僕らの時は、あのお応募者一倍あったんちゃう。倍以上あったね。2.5倍くらい　{笑い}

074SA:船場の坊ちゃんが多かったもんね？

075SC:そーそーそーそー。割とえーとこのんねー。おったおった

076SA:あこはねえ

077SC:学校はビリ商やったけどな

078SA:T[人名]ーとO[人名]屋の息子とかねー

079SC:うん

080SA:かなりー

〔老ー調〕

収録日時：2001年6月20日 収録場所：不明 話題：SAの自己紹介→SAのサークル→そろばん→SAのサークル→大阪方言

063YF：じゃあ、先ほどまあ、あのーお名前をお聞きしましたけど。まあ改めて
064SA：いやいや
065YF：えー、私Aといいます。よろしくお願いいたします。
066SA：あっ、私あのUN[SAの名前]と申します
067YF：はい、今あのご年齢は何歳
068SA：ええー、68才
069YF：68才ですか、あー、はい
070SA：はい。でー、暮れになると69になり、満68才なんです
071YF：あー、でー今もお話ありましたけど、出身はじゃー、もう大阪ですね
072SA：大阪生まれの大阪育ち
073YF：はあい
074SA：天満生まれですわ
075YF：ああ{笑い}
076SA：天満、天満、天神さん、大阪の
077YF：はい
078SA：有名な　天神祭りのお膝元で
079YF：ふーん
080SA：ありましてねえ。で、毎年この奉行としてねえ
081YF：ええ
082SA：さわ[世話]さしてもうてますねん
083YF：もうお生まれになってから
084SA：ええ
085YF：ずーっと
086SA：ずっとー天満におりましたなあ。　40代ぐらいから淀川区に
087YF：はい
088SA：移りましてねー
089YF：あー
090SA：淀川、今新大阪からや、くる、2、30分のちょっと
091YF：はい
092SA：西南の方の
093YF：今もそちらですか？
094SA：今そこです
095YF：ああ、そうですか、ああ　でー、ご職業、ま、以前のご職業ーってゆーのは
096SA：はじめはまあ、しょ、商売人とかいねえ
097YF：はあ
098SA：学校出てー
099YF：はい
100SA：で、まあ普通のねー、天満に近いさこくしょー[地名]とかね
101YF：ほー
102SA：そーゆーとこへ勤めてねー
103YF：はい
104SA：そえから変遷してえー
105YF：はい
106SA：えーいろいろさしてもらいましたけどね
107YF：ふーん。それはどういった、そーゆー、そのー、職種ってゆ、職種っていいますか
108SA：んー　そえー[それ]し、経営状態があんなんでーやっぱしーやれんくなったでしょ？
109YF：はー
110SA：商売がねえ
111YF：あー
112SA：企業も勤めたて、まあ定年してねえ
113YF：はい
114SA：コンピューター関係ね
115YF：おー
116SA：そろばんがすきなんでねー。そろばんの講師なってやってたんですわ　母校のね
117YF1：あ、ほー、はい
118SA：やけどそれはー、ちょっとー、ねえ　どうゆうこと

〔若ー若〕

収録日時：2001年11月19日
収録場所：YA自宅（大阪市北区）
話題：高校時代の友人→YCの就職とパソコン・カード→公務員試験→就職・赴任地→アルバイト→仕事→面接

201YA:/沈黙6秒/ まー、 なんか、 なー、 TG「人名」も[YC] どっか、 どっかってゆうか 愛媛やったっけ？
202YA:行ってまうし。 //なんか 寂しくなるな
203YC://いよ 伊予三島市やで。
204YA:伊予三島市↓。
205YC:うん
206YA:おー。
207YA:まだ 手紙 書いてや。
208YA:手紙っちゅうか、メール。
209YC:メール
210YA:パソコン 持っていくやろ？
211YC:そこー とりあえず わいの こう 弟さ 今 就職活動 やってるーやん
212YA:あー。
213YC:やって 今 なんか メチャリクナビとか 登録しまくっとるねん。
214YA:おー。
215YC:そいでな、も 部屋も なんか まだ 見てないんやけど
216YA:ああー。
217YC:たぶん 七畳とか 言われてるんけどさ。
218YA:あー 広いやん。
219YC:ん でも、な
220YA:うん。
221YC:どうせ もう ノートに しようかなと 思って
222YA:ノート 買ったら いいよな。
223YC:うん。
224YC:だから ま すぐにはな とりあえず 今度 いって 電話っ そこ 電話線 引こうと 思ってん//ねんけど、
225YA://おおー。
226YC:でも、な ま ちょっ パソコン 買うん もう ちょっと 先の //話
227YA://おおー。
228YC:とりあえず あの 携帯メイルのみ〔笑いながら〕ということで
229YA:はい はい。
230YA:携帯メイルよな、やってくれたら いいしな。
231YC:うん だから うん
232YA:うん。
233YC:あれやん、こう インターネットしようと 思ったら カード 作らな あかんやんか？
234YA:おおおー。
235YC:カードも 俺 もってないしな、だから
236YA:そうなん？
237YC:うん。
238YC:だから 作ろう 作らな あかんし。
239YA:えっ 前 なん どう やっとったん？
240YC:ん、おとん おとんの 名前で、
241YA:あーあー。
242YC:登録 家は 登録してるから、
243YA:あ、ほんま？
244YC:請求 おとんに いってたわ。
245YA:あー。
246YC:だから 俺も 海外 一回 いった ときも、
247YA:おー。
248YC:直前まで 作ろうかなと 思っててんけどさ、
249YA:おー。
250YC:結局 作らんとさ、
251YA:おー。
252YC:もう なんか 現金のみで 行って、
253YA:おー。
254YC:なんか もう ほんまー 危険な 旅してるやろ。
255YA:あーー。
256YC:カード もってないやで、

〔若ー調〕

収録日時：2001年11月19日 収録場所：YA自宅（大阪市北区） 話題：自己紹介→YA生活地→バイト→遊び場→YF1の大学→高校時代→六甲山・有馬温泉

001YA:【2分5秒経過時点】//あ　どうも　はじめまして。

002YF://どうも　はじめまして。

003YF:あの　改めて　YF「人名」と　言いますー。

004YA:あー　UB「人名」と　申します。

005YF:えっと　えっ　と　阪大ー、

006YA:はい。

007YF:に　通って、えっ　院ー　は、

008YA:いん　院も　あの、入ったんですよ。

009YF:はい。

010YA:ほんで、えーと、入ったんですけど、いろいろあって、あの、半年間　行っただけで、(YF:あー)あと　休学って　やって　やってて、いま　今に至るというか　今　一応　エム二に　なってるんですけど。

011YF:はい。

012YA:はい。

013YF:あ　そうですか。

014YA:で　そうですね。

015YA:なんか　これから　どうしようかなって　考えてるところで。

016YF:あっ　あー　なるほど。

017YA:はい。

018YF:えっ　そつーろんは　何で　書かれたんー。

019YA:あっ　卒論は　えっと、逆接の　接続詞で　やって。‖

020YF:ってことは　えーと　げんーにち。

021YA:はい。

022YA:現日です。

023YF:あー。

024YA:はい。

025YA:えっ　なんか　お詳しいですね。

026YF:いや　あの　今年から　あのー　はい　院の　ほうに　//厄介に　なってます。

027YA:あ　阪大のーですか？

028YF:はい。

029YA:ああ　あ　そうなんですか。

030YF:えー。

031YA:大学ーは　どちらですか？

032YF:と　富山大です。

033YA:あ　富山大学。

034YF:はい。

035YA:へーー。

036YF:ま　はい　富山から　はい　今年、

037YA:はい。

038YA:あ　そうなんですか。

039YF:{笑いながら}　大阪に　来まして。

040YA:あ　社言ですか？

041YF:ええ　はい。

042YA:ああー　へー。

043YF:ですんで　も、TG「人名」さんの　お世話んなってます、いつも　いつも。

044YA:あーー。

045YF:いや　ほんとに　僕　新潟なんですけども、

046YA:はい。

047YF:高校　出身は。

048YA:あーー。

049YF:で　もう　こうゆう　高い　マンションとかって　見た　こと　ないんで、

050YA:はい。

051YF:{笑いながら}　もう　ここからの　さきの　駅の　ところから、

052YA:はい。

053YF:ずっと　もう　上　見上げながら、

054YA:あーー。

056YA:はい。

057YA:長屋とかあの、工場ー、工場があったんです